

平成 27 年度第 2 回千曲市総合教育会議議事録（要約）

1. 日 時

平成 28 年 1 月 28 日（木） 午後 3 時 40 分から午後 5 時 15 分

2. 場 所

千曲市役所戸倉庁舎 会議室 2

3. 会議日程

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 会議事項
- (4) その他
- (5) 閉会

4. 議 題

- (1) 千曲市教育大綱について

5. その他

- (1) その他

6. 出席者

委員 岡田市長 赤地教育委員長 若林職務代理者 武井教育委員 坂本教育委員
中村教育委員 吉川教育長

職員 多田総合政策担当部長 堰口教育部長 竹内総合政策課長 坂井教育総務課長
稲玉政策推進係長 滝沢総務係長 吉迫主査

7. 会議要旨

開会（多田総合政策担当部長）進行

市長あいさつ

- 2 回目の会議として、大綱の制定について、しっかり議論お願いしたい。
- 大綱は、我が市の教育をどうしたいか、ということを地域市民に知ってもらうために広くアピールしていきたい。市民に訴えるようなものになることが重要。
- 市民全員が地域として、教育にどう取り組むか、ということを考え、浸透するようなものに。

自己紹介

会議事項

- (1) 千曲市教育大綱について

(稲玉政策推進係長)

- 資料1について説明

(堰口教育部長)

- 千曲っ子ビジョン（概要）説明

(岡田市長)

- 千曲っ子教育ビジョンそのものは学校教育中心の記述で、昨今の子どもの虐待や福祉といった面、健康だとか、社会教育的な面をもっと強調したほうがよいのではないか。学校と地域社会の中で、地域の人たちと関わりをもって、教育を進めていくのかということも大きいと思う。

(吉川教育長)

- 本教育振興計画は、教育に関わるものが全て千曲っ子教育ビジョンに納まるというものではなくて、社会教育、生涯学習、スポーツ振興、文化等に関わる分野ではそれぞれ具体的な計画があり、トータルとして成り立つようになっている。
- 千曲っ子教育ビジョンは、比較的学校教育に視点を当てて、それと関係する家庭、地域を軸にして展開しているのので、ここで不足する分については、人権、読書、生涯学習、文化振興、スポーツ振興、男女共同参画、国際理解など具体的には、それぞれ計画を持っているという位置づけになる。

(坂本委員)

- 大綱という語について、教育基本法の改正時、どこが問題かという議論で、1点目は、基本法は世界中のどこの国へ持って行っても通じるのではないかというのが1点。2点目は、縦の関係が出てこない。例えば、おじいちゃん、親、子どもと、今、三世同居なんてないが、そこが失われている、あと、歴史。そこが今の教育基本法改正の大きい議論であったと思う。
- 基本的には事務局案に賛成だが、それを大綱とするならその縦の関係が認識されているかどうか、説明ができるか。ビジョンを他市で使っても、このまま通じるので、千曲市的なところはどこといわれた場合、明言できるか。その2点いかがか。

(岡田市長)

- 千曲市の場合、子ども育成条例、家庭教育支援条例が成立しているというので、千曲市らしさ、大綱の中に千曲市は何を目指すのかということをはっきりと明らかなにしていかなければ、どの市も同じになってしまうという恐れはある。
- どこまで、どんな教育を、特に学校教育は良いが、社会教育というか、縦の関係とか、地域で子どもを育てるといった部分を強調したい。市民の人たちがビジョンの中身を知り、その教育の方向に向いてもらわないと、大綱の意味がない。みんなで進めようというスローガンでもいい、それを呼び掛けるということが大事。
- 最近2件くらい虐待の事件が出ている。我が市でも起きないといった可能性は絶対ない。その辺のところはしっかりやらないと、市で2つの条例が成立しているという大きなことがあるので、その辺は議会も関心を持っていると思っている。

(吉川教育長)

- 教育分野においてはあくまでも教育基本法、国に則った人間性を育成するという面での取り組みになるので特色を出すというのは非常に難しい。
- ただ、千曲市の特色という面からすれば、この計画を大事にしながら、これまでの5年間

の取り組みを評価しつつ、今後何を大事にすることが千曲市としての成果に繋がるかというところで、取り組みの様子、実態調査等しながら、問題点や課題を洗い出して、そのうえでどうする、ということまでまとめている。

(岡田市長)

- 本ビジョンはどちらかというと教育委員会、行政の側から見た計画になっていると思う。方向性としてはわかるが、市民の側からこうやってほしいとか、こういきたいとか、そういったスローガンのようなものが、より分かりやすいのでは。地域の中で、市民の方々に、教育をしっかりとイメージして、認識してもらうために、何か、市民の側からしっかりやりましょうねといった雰囲気が上がってくるようなスローガン、大綱がほしい。
- 今は、計画策定には市民と議論しながら、ワークショップをしながら持ち上げてくることが多い。市民サイドの側からの、何か教育大綱として言えるものがあるとよい。そのことが逆に市民に大綱としてこうなんですよという説明をしたときに、しっかりとした大綱になるのではないかな。
- キャッチフレーズでもいい、市民の側から、やっぱり皆で子どもたちを育てていかなければいけないよねというふうに思ってもらえるような、何かが欲しい。

(吉川教育長)

- それも非常に大事な点だと思う。そういう面で県を挙げて取り組んでいる、信州型コミュニティスクールがある。地域の皆さん方が学校を支援して魅力ある教育活動を展開するというようなことで、今どこの学校でも、その体制づくりに力を入れているが、そういう部分が確立してくると繋がっていくのではないかな。

(赤地教育委員長)

- 関連して、(千曲っ子教育ビジョンの) 目次でいうと、第2章が現状と課題、第3章が施策の方向性なので、この方向性に加えて、具体的な施策の例などにも少し触れていただければいいのではないかな。市民側からのスローガンのような施策も書けば、大綱としていいと思うがどうか。

(岡田市長)

- 大綱は、本当にスローガンで良いと思う。私たち千曲市が、子どもたちをこれからどう育てていくかという意気込みを市民に示したうえで、教育に対する関心の度合いや勢いなどを高めれば、「じゃあ皆でやろう」という意識づけをしてもらえるのではないかな。初めてつくる大綱で貴重な機会だと思う。私ども千曲市のキャッチコピーが欲しい。(千曲っ子教育ビジョンの) 書いてある中身は、間違っていない。全部正しい。その辺で、ひとつ何か、もっとインパクトを与えるようなものがあったら良いのではないかな。

(中村委員)

- 用語の問題で「生きる力を育む」とある。この「生きる力」の定義とは、学校でどうやるのか。生きる力の定義がはっきりしていないので、どうやったらどの程度の生きる力がつくのか研究途上だと思う。そのような語にもこだわり、逆に生きる力って何？と話すような市民の場ができるとよい。勉強会というと固くなってしまいが、そのようなことを世代にかかわらず皆で勉強する会ができるような場があるとよい。

(岡田市長)

- 今、市内で様々な団体の方々が様々な活動をしている。子育て中の母親や様々な立場の人がいろんな思いを持って活動している。その団体が教育大綱を中心にしながら、活動の場

を広げていけるような環境ができるとよい。

(若林職務代理人)

- ビジョンは作るだけではなく、次のステップとして、すべての世代の人にアプローチして、学校だけにとどまらず、地域の人、これから産み育てる世代、市民全体がビジョンの方向を向いて実行していけるとよい。そのために市民にも勉強していただく、市民みんなが参加できるシンポジウムなどを開催することで、市民の意識は向上していく。この回数を重ねることで実効力をあげ、教育について考える団体が増え、千曲市を担う大事な子どもたちを、皆が協力して育てていくというような機会がどんどん持たれればよい。

(武井委員)

- そもそも教育基本法があって、それを基にして、教育大綱を策定するということだとすると、この教育大綱というものは、ある程度金太郎飴的なものにならざるを得ないのではないか。それを実際の活動の中に活かせることによって、具体的な施策というか、方策によって、特色というものを出す方向であるというように思う。
- 大綱は、そんなにより特色のあるものということではなくて、それをどう我々が解釈するか、例えば、これを受けて、議会で制定された家庭教育支援条例だとか、子ども育成条例、こういったものを活かして行って、特色を出すという方向性もあるのではというようにも考えられる。

(坂本委員)

- あくまでも教育基本法に基づく大綱作りだということで、教育基本法は何かというと、今の教育基本法というのは、目標達成型教育というのが明確に示されている。(千曲っ子教育ビジョンを) さっと見たら、それは全部入っていると思う。それは目的は良いと思う。ただ大綱という言葉があるので、大綱というのは、自分の考えるイメージとしては、まず、発信力があると、そして、大綱を出すのは千曲市だから、何かちょっと千曲市だけで通じる言葉があってもよいのではないか。
- その次は、個人的な意見を含むが、いろんな問題というのは家族主義っていうのが大分崩れてきているからではないか。だから、そういう中で、家族主義というのが復活できたらいいなど、それが個人的な考えだ。
- このままだでもよいが発信力をつけるというのが必要。大綱なので発信力がないと、市民には届かない。

(岡田市長)

- ビジョンには10年後の教育の姿と書いてあるので、ここに全て漏れなく入っていると思う。この中で、今、委員の発言のように、発信力をつけていく。市民が何となく同調できる、あるいはそうしなくてはならないね、と感じるようなスローガンのなものでもいい。
- ビジョンの内容で、子どもを守るための連携とか、すごく大変なことだ。それはやっていかなければいけないことだが、それも含めた何かもっと大きな、大綱の中で大きく発信できるようなキャッチコピーみたいなものがあり、それが千曲っ子教育ビジョンだというふうに示せればよいという気がする。

(若林職務代理人)

- 市町村規模の違いもあるが、例えば青木村では「～青木っこ」というポスターやステッカーが掲示され村民に訴えかけている。青木村は1村1園1校という運営のしやすさもあると思うが、村をあげて「～青木っこ」になるように教育の意識が高まっている。

(岡田市長)

- 若林職務代理者がおっしゃったように、市民全員で教育に向かうようなキャッチフレーズがあるとよい。
- 皆さんにご理解いただければ、事務局の方で、どういった中身にして発信力を高めていくか次回までにお示ししたい。スローガンなり、キャッチコピーなり、それをもって皆が教育へのイメージをして、こうしましょうと思えるもの。
- 皆でできたら、少なくとも虐待事件のような、地域が無関心でいられるということはなくなると思う。
- 特に今回、子ども育成条例と家庭教育支援条例というのができたが、市民の意識を高める、そして社会全体で子どもを育むと定義している。ここをきちんと表にPRできないと、教育大綱、ちょっとどうなのとなりかねない。(千曲っ子教育ビジョンの) 後からできた条例ではあるが、この条例がある限り、市民の意識を高めるようなことをやっていくことの方が、市側としての大綱になりうるかなと思う。いくつかスローガンのようなもので良い。中身は説明すればよいので条例がイメージできるようにしていったらどうか。

(赤地教育委員長)

- 発信力が出るもの、千曲市の教育がイメージできるものはいへん結構だと思う。あと、全市民にアピールするものとして、例えば、A3版にして直ぐ目にするものとか、そういうことになるのだろうか。アピールの方法はいかに皆が読むか、浸透するかという工夫が必要。

(岡田市長)

- 千曲市が教育大綱を作ったと発表すると、どんなもので、何を作ったのかと市民は感じるはずだ。その時に、こうだ、とアピールするものでなければならない。
- 子ども育成条例と家庭教育支援条例あるということが認識できるようなものが欲しい。大綱が後で、条例が先なので、そこを何とか示したいという思いがある。
- 皆さんにご理解いただければ、事務局である程度、子ども育成条例や家庭教育支援条例と合わせながら大綱をPRでき、どんなキャッチコピーが良いかを詰めてから、再度その部分を議論する場を作ったらどうか。

(若林職務代理者)

- キャッチフレーズには「千曲っ子」を入れたい。大綱を決め、それを展開してビジョンを市民に浸透していく。その千曲っ子が市民に浸透して展開していくために、何をやるかということが重要。定期的、不定期にかかわらず、子育ての大変さを軽減するような学習会を実施してほしい。また、SNSの怖さも認識されるようにしてほしい。もっと千曲市が教育について向かっていくような学習会を実施してほしい。

(岡田市長)

- 確かにビジョンを作っても、作って終わりではない。作ってからがスタートだ。これから、本当にどうやって市民の中にこの千曲っ子教育ビジョンを浸透させていくか。例えば、市民大会などの実施。今、子育て中の母親グループなど、子育て活動に積極的な団体もある。その中では、外へ出てくる母親はいいが、閉じこもってしまう母親をどうするか、ということも考えている。とにかく、せっかく作ったビジョンを定着していく努力は、当然、市の教育委員会もやらなくてはいけない。

(中村委員)

- 先生方も含めての懇談も大事かもしれない。でも、「勉強会」となってしまうと出てきてほしい人が出てきてもらえないこともある。あまり、肩ひじ張らず楽しんで出てこれるような会になればよいと思う。

(若林職務代理者)

- 確かに、人権の集会などでも高齢者は多いが若い人が少ない。子どもたちがステージをやり親が来るなど、柔らかく勉強会していこう、というような気運が高まるとよい。

(岡田市長)

- 教育ビジョンができ、教育委員会制度も新しくなった。また今、様々な課題がある中で、多くの市民はこの教育大綱に関心を持つと思う。議会でも、子ども育成条例とか家庭教育支援条ができた。それだけ関心が高まっている分野なので、まず、どういう大綱ができたかということをも市民にアピールし、理解してもらう。その努力が必要。そのためにはアピールできるものが必要。せっかくだいいいものを作っても19市出そろったら必ず比較される。その時にインパクトを持ったアピールをしていきたい。

(若林職務代理者)

- 家庭教育の弱体化と言われるが。時代で比較してはいけませんが、時の変化、豊かさがもたらしたもので、現代は仕方ないのかもしれないが、家庭力をあげることが重要。

(岡田市長)

- この教育振興ビジョンは素晴らしく、どこに出しても通用すると思うが、市民に伝えていけるような、スローガンというか、アピールをして浸透してほしい。

(坂本委員)

- 家族主義というのは、教育の基本であり日本のみではない。世界中どこでも家族主義と言える。千曲市の子ども育成条例というのは、我々が子どもだったときは、地域の人が教育してくれたが、今それが途切れているのでこのような条例ができた。もう一つは、家庭教育支援条例というのは、ここでいう家庭教育というのは、昔、おじいちゃんおばあちゃんが若いお父さんお母さんに対して家庭教育をしていた。それが途切れてしまったので、地域・家庭で何とかしていこうということで、このような条例ができてくる。だから、そこは、市民目線に立ってみると、わかりやすく発信して行くべき。大綱というのは、施策ではないから、ちょっとそれを見たらワクワクする発信力を持つべきというのが、自分の考え。家族主義というのは、変な意味で言ったわけではなく、家族主義というのは教育の基本だと思っているということ。

(岡田市長)

- 地の言葉でもいいが、皆がわかるような、そういうものが欲しい。それがあることによって、市民の方々が、やっぱり、それはみんなですりしようとなる。
- もう一度、総括して、相対的にどういう目標とか、キャッチコピーを持ちながら、発信力を高めていくかということではいかか。そういう一つの方向を持って、どういうキャッチコピーにしていくのか、市民にきちんとアピールできること、そのことがまずは入ってこなければいけないので、いくら立派なものを作っても周知していかなければいけないので、そういう部分を含めて、次回示すものをご提案したい。

事務局（稲玉政策推進係長）

- 次回、大綱はインパクトのあるようなものをご提案したい。今回は、他市の状況を含めビジョンを読み替えている市はどうか、というようなことを調査しお示しした。

(岡田市長)

- 委員のみなさんもアイデアがあれば出していただきたい。

○その他

事務局（稲玉政策推進係長）

- その他としては、今後、この会の開催について、教育委員会定例会に合わせて開催したいということをご提案いたします。また、大きな課題をいただいたので、6、7月の定例会の後で開催を考えていましたが、今回の宿題を踏まえ次回は早々に開催いたしたい。

閉会（多田総合政策担当部長）

(閉会時刻 17 : 15)

議事署名人
